

本号の特集は2001年9月に行われた国際シンポジウムの報告です。

今回のシンポジウムの記録では、直前に会議進行役を務めることになったため、配慮の回りかねることが多く、開会と閉会の辞の録音等がうまく行かずにこれらを割愛せざるを得なかったことは本当に遺憾なことで、不手際をお詫び申し上げます。

ところで、古典学のホームページの背景などに使用しているのは、アンコール遺跡などで撮影してきたクメール文字の刻文です。敢えて古典学再構築にはほとんど参加メンバーのいない地域のものを選んだのですが、東南アジアの古典学といった従来は等閑視されてきた分野への関心も喚起したいという意図もないわけではありません。

2002年3月2日

高島 淳